企業と投資家の建設的な対話の“礎”

総勢500名超の証券アナリストによる厳正な評価。

ディスクロージャー優良企業選定2016

証券アナリストが企業のディスクロージャーの質、量、タイミング等の優劣を判断し、
3つの部門で優良企業を選定。2016年度は以下の企業が選ばれました。

受賞企業一覧

業種別

［食品］味の素　［化学・繊維］三井化学　［石油・鉱業］昭和シェル石油　［鉄鋼・非鉄金属］住友金属鉱山　［機械］小松製作所

［電気・精密機器］オムロン　［自動車・同部品・タイヤ］富士重工業　［電力・ガス］東京瓦斯　［運輸］ANAホールディングス　［通信・インターネット］日本電信電話

［商社］三菱商事　［小売業］丸井グループ　［銀行］三菱UFJフィナンシャル・グループ　［コンピューターソフト］SCSK

新興市場銘柄

プロトコーポレーション　セリア　セプテーニ・ホールディングス

個人投資家向け情報提供

アサヒグループホールディングス　日本電産
三菱UFJフィナンシャル・グループ

22回目を迎えた、企業の情報開示を促進する選定制度

IRを進める企業にとって、投資家との対話は大きな課題となり、ディスクロージャーが果たす役割はますます重視されています。日本証券アナリスト協会の「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」は、こうした時代のニーズを先取りし、1995年に生まれた選定制度。ディスクロージャーの促進、特に企業の自発的・積極的な情報開示を目的としています。
22回目を迎えた今年度は、500名を超える経験3年以上の証券アナリストの厳正なる評価のもと、上記の企業が選定されました。評価対象は、業種別、新興市場銘柄、個人投資家向け情報提供の3部門。各々、東証1部上場の15業種計242社、新興市場銘柄26社、個人投資家向け情報提供22社でした。

5分野にわたって評価し、すべての企業にフィードバック

業種別部門の評価基準は、次の5分野です。

❶経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス
❷説明会、インタビュー、説明資料等における開示
❸フェアー・ディスクロージャー
❹コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示
❺各業種の状況に即した自主的な情報開示

この選定制度の特徴は、評価に参加したアナリストでもあるディスクロージャー研究会専門部会委員が、評価対象企業すべてにフィードバックを行うことです。企業のIR担当役員等に評価結果を説明し、意見交換を行い、今後の改善事項について認識を共有するなど、ここでも「対話」を重視しています。

「建設的な対話」を実現する質の高いディスクロージャーへ

現在、スチュワードシップコード等では、企業と投資家の「建設的な対話」が課題とされています。また、一部の企業では投資家との対話を経営戦略の策定に活かす取り組みも始まっています。より質の高い対話のために、求められるディスクロージャーの水準自体も高まっていると言えるでしょう。
この選定制度の役割もそこにあります。企業情報の利用者である証券アナリストが評価することで、時代に即したディスクロージャーの取り組みを評価できます。改善が期待される企業は、フィードバックを通して底上げを図ることができます。日本証券アナリスト協会では、今後も企業と投資家の「対話」の“礎”となるディスクロージャーの向上に貢献してまいります。

～金融・資本市場の健全な発展に貢献する～

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

詳細は、特設サイトをご覧ください。
http://ps.nikkei.co.jp/disclosure2016/